

風の時代を滑るように渡る人

松田さんと初めてお会いしたのは、銀座にあるギャラリーでの忘年会でした。当時はたくさんの方がいらしていたため、言葉を交わしたのはほんの少しでしたが、以来、個展のダイレクトメールを送っていただいたり、気の向くままにタイミングが合ったときにお茶をご一緒したりと、軽やかに、とてもあたたかくご厚誼をいただいております。まさに「風の時代のおつきあい」という感じです。

実は私は小説家のかたわら、副業でタロットの鑑定をしています。「風の時代」というのは占星術の言葉で、詳しい説明は省きますが、それまで200年ほど続いた2020年までの「地の時代」から「風の時代」に変わったということの意味します。

ところで、初心者がタロットカードを学ぶ際に「自己紹介」ならぬ「他者紹介」というものがあります。何枚かカードを使って、その場にいる相手がどんな人間なのか、直感を使って紹介するものです。私がこのコラムの執筆依頼をいただき、松田さんのことについて書いてみようと思ったその時、パッとひらめきがやってきましたので(笑)、タロットを四枚引いて、僭越ながらその人となりを書いてみたいと思います。

まずは「輝き」のカード。

たくさんの方の能力、才能をお持ちで、さまざまなことに興味があるというよりも「思いついて」しまうタイプの方。それらのことをいくつも並行して進めていける人です。内に秘める何か、というよりも、能力を形にして外に出すことで、より一層輝いていかれるようです。

二枚目の「発明家」(カード)が、その「輝き」を後押ししてくれます。

この世に必要な革新的なアイデアを芸術という形で人々に示すことにより、見ている側にも革新的なアイデアをもたらします。作曲家や作家が、画家からインスピレーションを受けることはよくありますが、そのヒントのようなものをふんだんに作品に盛り込み、楽しい仕掛けとして用意なさっているのかもしれない。

三枚目は「喜び」のカード。

自分のひらめきや思いつき、アイデアを芸術にしていくことに極上の喜びを感じ、見る人へもその喜びを波紋のように伝えていきます。楽しさ、喜びの波紋はさらに広がり、宇宙からのひらめきを宇宙へ返すようなそんな営みを、芸術を通してなさっているのかな、と感じます。

最後に、これからの未来がどうなっていくのかを引いてみると、「変化」のカードが出ました。

季節が変わるように、また天体の動きが大きく変わるように、日常生活は日々、一日も同じことはなく変わっていきます。その変化に合わせて、松田さんの芸術にも変化が訪れるようです。

それはさなぎから蝶が変わっていくような変化。ピカソやモネ、ミロなどの画家が、過去の自分を肯定しながら作風をダイナミックに変換させたような、より自分自身の核に忠実に、しかし驚きをもってご自身の表現にますます精力的に向き合うこれからのようです。

これまで「地の時代」の芸術は、どちらかといえば暗さ、闇、重さ、深さの中にある小さな光といった、そういうものが好まれていた時代でした。しかし時代は確実に変わっています。世界はより明るく、よりクリアに。鋭く豊かな感性で時代を先取りし、その空気を的確にとらえて作品になさっている松田さんは、まさに「風の時代を滑るように渡る芸術家」なのだと私は思います。

小説家
野間美智子